

# 稲発酵粗飼料(WCS)用品種「たちすずか」の選定と直播特性



図1. 「たちすずか」の出穂後8日(左)と黄熟後6日(右)の草姿

注) 場所: 鳥取農試耕起乾直ほ場, 撮影年月日: 左: 2010.9.7, 右: 2010.10.13

表. 「たちすずか」の特性概要 (移植)

品種名		たちすずか	クサノホシ	ホシアオバ	北陸193号
形質					
出穂期	(月・日)	9.04	8.31	8.17	8.23
成熟期	(月・日)	10.25	10.28	10.02	10.12
稈長	(cm)	111	97	101	84
穂長	(cm)	14.4	19.4	20.4	25.5
穂数	(本/m <sup>2</sup> )	326	297	309	305
黄熟期全重	(kg/a)	175	165	159	183
同上比率	(%)	106	100	96	111
成熟期全重	(kg/a)	227	215	206	235
粗朶重	(kg/a)	21.7	80.3	74.1	96.2
粗玄米重	(kg/a)	17.0	63.2	61.0	75.5
同上比率	(%)	27	100	97	119
玄米千粒重	(g)	22.9	26.1	28.0	23.7
外観品質	(1~9)	8.2	9.0	8.7	5.5
倒伏程度	(0~5)	0.0	0.0	0.0	0.0
葉いもち発生程度	(0~5)	0.8	0.5	0.0	0.0
紋枯病発生程度	(0~5)	1.8	2.8	1.9	1.8
止葉の黄化程度	(0~5)	1.2	1.2	2.9	1.8
脱粒性		中	やや難	やや難	やや難
葉いもちほ場抵抗性		*	*	*	*
白葉枯病ほ場抵抗性		強	強	弱	極強

## クサノホシと比較した

### 特性の概要

出穂期: 4日遅い

成熟期: 3日早い

晩生品種

長稈・極短穂、穂数多

く、全重やや多収

朶重が極低収で全重

やや多収のため茎葉

割合が高く、牛が消化

するのに有利

耐倒伏性: 強

脱粒性: 中

葉いもち発生程度・白

葉枯病ほ場抵抗性は

同等

注1) 調査年次: 2009, 2010年で移植期は6月3日で施肥は以下のとおり

堆肥: 3 t/10a施用、施肥: Nkg/10aで4-4-4(基肥-分げつ肥-出穂期肥)

注2) 粗玄米量、千粒量は水分15%換算、全重; 黄熟期: 全乾重、成熟期: 風乾重

注3) 外観品質: 1(上上)~9(下下)

注4) 倒伏・病害発生程度: 0(無)-5(甚)

注5) 葉いもちほ場抵抗性は畑晩播検定により\*は真性抵抗性を持つことにより判定不可

## 茎葉割合が高く牛の消化に有利

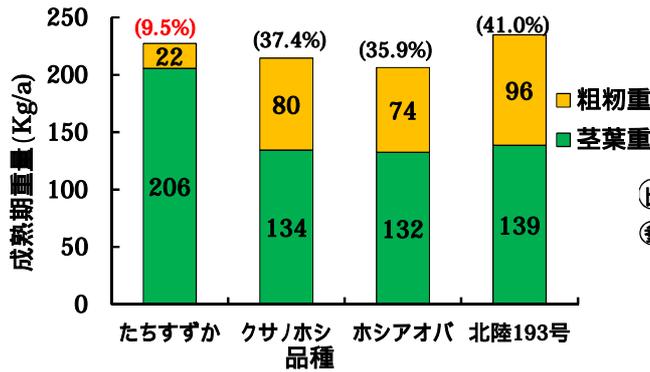


図. WCS用各品種の粗・茎葉重 (移植)

注1)調査年次: 2009,2010年、調査場所: 鳥取農試  
 注2)施肥はNkg/10aで4-4-4(基肥-分けつ肥-出穂期肥)  
 注3)重量: 水分15%換算、棒上:(粗粒重割合%)

## 稈質は剛で葉の枯れ上がりが少ない

表. 成熟期の立毛状況

品種	稈		粒着	脱粒性	穂重感	下葉枯上	止葉	
	剛柔	太細					枯上	葉色
①クサノホシ	剛	ヤ太	密	難	中	3.0	0.5	ヤ濃
②ホシアオバ	剛	ヤ太	ヤ密	難	中	2.5	3.0	ヤ濃
たちすずか	剛	太	密	中	極軽	2.5	0.5	ヤ濃
北陸193号	極剛	太	ヤ密	ヤ易~ヤ難	重	1.8	1.0	極濃

注) 調査年次: 平成22年、調査場所: 鳥取農試、枯上数値は0(無)-5(甚)

## 耕起乾田直播栽培が可能で施肥は窒素で上限が22kg、播種量は乾粒5kg/10aが適当。

### 基肥は窒素で22kg/10aが上限と考えられます

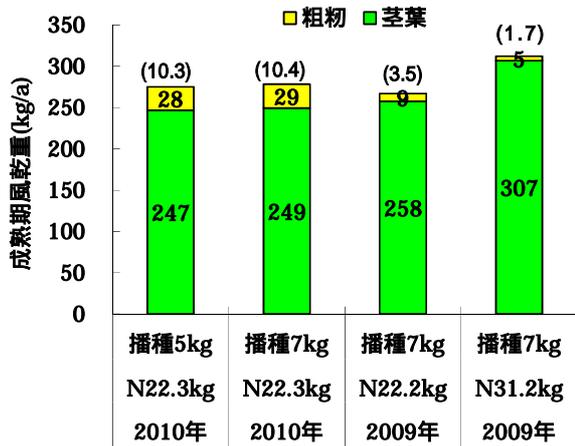


図. 「たちすずか」の成熟期の収量性 (耕起乾直)

注1)調査年次: 2009,2010年、調査場所: 鳥取農試  
 注2)重量: 水分15%換算、棒上:(粗粒重割合%)

### 年次により苗立本数が同じでも稈質・倒伏程度が異なることから過繁茂防止が重要です

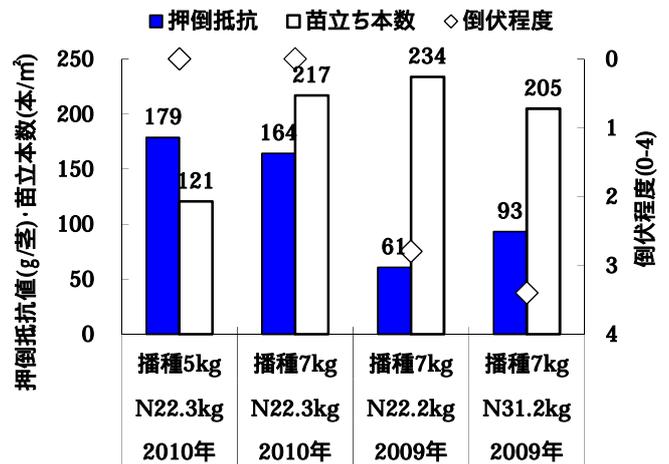


図. 「たちすずか」の直播特性 (耕起乾直)

注)調査年次: 2009,2010年、調査場所: 鳥取農試

消化しにくい粗重が小さく全重は大きく耐倒伏性に優れる「たちすずか」は本県に適応性のあるWCS用品種である。

移植栽培においては、堆肥3t/10a施用し施肥はNkg/10aで4-4-4(基肥-分けつ肥-出穂期肥)の試験結果である。

耕起乾田直播においては、播種量は乾粒5kg/10aとし、施肥は堆肥無施用で窒素総量を22kg/10aを上限としNkg/10aで5.9-4.4-3-3-3-3(播種時-入水後-分けつ期(入水後25日)-幼穂形成期-幼穂形成期の10日後-出穂期)を施用する。リン酸および加里は基肥全量施用とし、それぞれ10a当たり、12kg、28kgを施用する。

雑草および病害虫防除は稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル(農林水産省)を遵守する。(ベンゾピシクロンには非感受性)

種子は県東部に許諾生産組織があるが、試験希望は、農業試験場に問い合わせる。

問い合わせ先 : 鳥取県農業試験場 作物研究室 電話 : 0857-53-0721

本書から転載複製する場合には必ず上記に許可を受けて下さい。